

テーマ 2

次の文章を読んで、以下の問いについて答えなさい。

本年（2024 年）は、まち・ひと・しごと創生法が施行され、地方創生の取組が本格的に始まってから 10 年の節目を迎える。（中略）人口減少に歯止めをかけ、東京圏への過度な一極集中を是正する目標の実現に向け、諸外国の取組も参考にしながら、我が国全体で戦略的に挑戦するとともに、人口減少下においても、希望を持って住み続けることができる持続可能な地域づくりを進めるため、従来の取組を超える新たな発想に基づく施策を検討・実行していくことで、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現する社会を目指すことが重要である。（地方創生 10 年の取組と今後の推進方向より）

例えば EU では、「アントレプレナーシップ（Entrepreneurship）は、あらゆる人にとって、重要な能力の一つであり、個人の成長や、積極的な市民性、社会参画や雇用可能性を高める」として、小学校からアントレプレナーシップ教育が実践されている。プロジェクトを通して新しい価値を創造し、そのアイデアをアクションにして行動するアントレプレナーシップは、とても重要な能力であり、若いうちからこの実践体験を継続的な学習活動として行うことで、アントレプレナーシップスキルであるリーダーシップ、発想力と行動力、ポジティブシンキング、責任感、未来をイメージする力、社会に対する志、チャレンジ精神、そして人脈の構築力やコミュニケーション能力などを向上させることができる。（高校生のあなたが起業を考えた時に読むテキストより）

最近日本でも、アントレプレナーシップというワードが注目されてきている。日本語では「企業（起業）家精神」と訳されることが多く、起業する人にもみ特有の資質であると誤解されがちである。実際は、いろいろな困難や変化に対し、与えられた環境のみならず自ら枠を超えて行動し、新たな価値を生み出していく行動能力を表したワードで、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かって挑戦したり、他者と協力することで、より良い結果を生み出すことができる知識・能力・態度は、すべての人に必要な力である。

問い. 上記の通り、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生する地方創生の実現に向けて、自分が貢献できること、または、これからやってみたいことをアントレプレナーシップに基づく取組として考案し、600 字から 800 字以内で答えなさい。

参考文献

「地方創生 10 年の取組と今後の推進方向」内閣官房

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/dai16/siryou3-2.pdf

2024 年 6 月 13 日アクセス

「高校生のあなたが起業を考えた時に読むテキスト」国立大学法人 弘前大学

